

令和3年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、法人ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和3年6月26日（土）日帰り 27日（日）オンライン

【当初の予定】

- ①令和3年5月15日（土）～16日（日）1泊2日
→緊急事態宣言（5月16日～31日）発令により延期
- ②令和3年6月19日（土）～20日（日）1泊2日
→緊急事態宣言延長（6月1日～20日）により再延期

(2) 参加者

- ①募集対象・人数
高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 30人
- ②参加人数
20人（高校生3人、大学生17人）【申込人数 51人】

(3) 講師等

- 講義1「ボランティア活動の意義」（オンライン）
講師：太田 直宏 氏
（公益財団法人YMCAせとうち 代表理事・総主事）
- 説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」
報告：法人ボランティア2人（国立吉備青少年自然の家）
- 講義・演習1「ボランティア活動の技術」
講師：乗本 雅彦（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）
- 講義・演習2「安全管理」（オンライン）
講師：井上 桂 氏（下関市深坂自然の森 森の家下関 所長）
- 講義2「青少年教育における体験活動」（オンライン）
講師：谷山 典（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職付主任）
- 講義3「青少年教育施設の現状と運営」
講師：山本 豊（国立吉備青少年自然の家 次長）
- 説明2「青少年教育施設におけるボランティア活動」
説明：延原 正章（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 開催については、新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえ、日帰りとオンラインでの実施とした。不足時間の補填として、事前課題を参加者に出すようにした。
- ② 実施に際しては、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、1人1台の机にしたり、参加者同士の間隔や身体接触に留意したりしながら講義・演習を行うようにした。
- ③ 広報については、県内の大学や高校にチラシの送付と窓口での連絡を主に行った。さらに許可を得た5大学と1高校については来校して直接広報を行うことができた。
- ④ 各講義では、様々な場面で青少年の体験活動を実践・支援されている講師の方々に依頼して、実践に基づいた講話を聴けるようにした。
- ⑤ ボランティア活動で必要な技術や知識を習得するために、講義だけでなく演習も取り入れ、体験を通して技能の習得を図った。

3. 活動の内容等

(1) 日程

令和3年6月26日(土)日帰り 27日(日)オンライン

6月26日(土)日帰り		6月27日(日)オンライン	
8:30	受付	9:00	講義・演習2「安全管理」
8:45	開講式	12:00	昼食休憩
9:00	講義1 「ボランティア活動の意義」	13:00	講義3「青少年教育における 体験活動」
10:30	休憩	14:45	講義・演習1-② 「ボランティア活動の技術」
11:00	講義2「青少年教育施設の 現状と運営」	15:30	説明2 「青少年教育施設における ボランティア活動」
12:00	昼食	16:15	閉講式
12:45	講義・演習1-① 「ボランティア活動の技術」		
15:15	説明1 「青少年教育施設における ボランティア活動」		
16:00	講義終了		

(2) 活動の状況



【講義1「ボランティア活動の意義」】



【講義2「青少年教育施設の現状と運営」】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【講義・演習1「ボランティア活動の技術」】



【説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足 75% やや満足 25%

(2) 参加者の声

- ① これからたくさんのボランティア活動をして、経験を積みたいと思った。
- ② 限られた活動時間でも、薪割りやオリエンテーリングなど仲間と協力しながら取り組む楽しさを知ることができてよかった。
- ③ ボランティアについての考え方など勉強になった。
- ④ 教育事業の体験活動や国際交流に興味があるので、積極的に青少年施設の事業に取り組みたいと思った。
- ⑤ 青少年に求められる資質や能力を学び、自分自身もより多く体験し、何事も楽しんでいきたいと思った。
- ⑥ 青少年に求められる資質や能力の育成について、体験活動やグループ活動が非常に有効なことがわかった。

(3) 成果

- ① 新型コロナウイルスの影響により、参加者が集まるか懸念があったが、大学、高校への広報活動を行えたことで、募集人数を超える申込者を得ることができた。
- ② 継続ボランティアからの発表や交流もあり、法人ボランティアに新規登録した参加者が、今後の事業等に参加しやすくなった。
- ③ オンラインでの実施を盛り込むことで、講師の日程の確保がしやすかった。

(4) 今後の課題

- ① 新型コロナウイルスの影響で開催日が2回延期になってしまったため、参加予定者が減ってしまった。余裕をもった延期日の設定など、運営スケジュールをより綿密に考えていく必要がある。
- ② 初めてのオンラインでの講義を取り入れたため、接続テストの日程の調整が難しかった。今後オンラインでの開催がある場合は、当日だけでなく、参加者や講師の接続テストの日程も考えていかなければならない。

担当：企画指導専門職 延原 正章